

(一社)新潟ニュービジネス協議会 令和2年度第1回国際ビジネス委員会
「留学生・修了生によるビジネスプラン発表会」 報告

日時：令和2年9月9日（水曜）17：00～

会場：ホテルイタリア軒

会場のホテルイタリア軒様のご協力のもと、出席した皆さまの安全と健康に配慮して開催をいたしました。

1. 主催者挨拶：国際ビジネス委員会 委員長 高橋秀之 氏

本日は、留学生、修了生の皆さまよりビジネスプランを発表していただけることを楽しみにしております。ニュービジネス協議会の皆さまからはこのビジネスプランのブラッシュアップになるような助言、アドバイスをいただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

留学生・修了生の皆さまも現在は大変な状況だと伺っています。感染には十分注意を払いつつ、諸先輩方へ遠慮なく質問や相談をしていただきたいと思っております。

2. ご挨拶・趣旨説明：事業創造大学院大学 副学長 富山栄子 氏

本日は貴重な機会を与えていただき、ありがとうございます。新興国と新潟をつなぐ新しいビジネスを起こしていくことは両国にとっても有意義なものだと思いますので、忌憚の無いご意見をいただければ幸いです。

3. プレゼンテーション・質疑応答

① 株式会社FIGHT 取締役社長 リ・キョウコン様

「新潟における外国人介護人材の展開」

質問) この事業における立ち位置は、海外から人材を連れてきて、紹介をして、フィー（手数料）をもらうというものか。

回答) 管理費をいただいている。技能実習生の月の管理費は大体3～4万円。管理の内容は技能実習生が会社とトラブルになった時の対応、病院のアテンド、また法律により月に最低2回の面談など。

質問) 売上の無い月はどのように過ごしていたのか。

回答) 最初はまったく売上げがなく、2月から売上げがあったが現在はコロナウイルス関係で売上げが立たない状況だが、社員は自分ひとりであり、NSGグループからも支援をいただき事務所家賃などの面で配慮をいただいているので、なんとかしのいでいる。

② 株式会社JV COFFEE 代表取締役社長 レ・ホン・フー様

「株式会社JV COFFEEの導入・成長」

質問) 新潟ではベトナムコーヒーのお店は無いと思うが、日本にはあるのか。

回答) あるが、このビジネスの形のようなものは他にはまだ無いと思う。

質問) ベトナムでコーヒー豆の生産量が世界で42番目だったのが2位になった理由はどのようなことか。国の支援があったのか。

回答) フランス人のためのコーヒー栽培であったところ、独立後にベトナム人のための栽培をした。農家がお米などに変えて栽培したので生産量が増えた。

質問) ベトナムでコーヒー農園を経営するには、日本円でどのくらい資金が必要か。

回答) ※後ほど回答

質問) ベトナムコーヒーは甘みが強いが、そのスタイルで売っていく予定か。

回答) その通り。

質問) 資金調達でクラウドファンディングを使いたい、という話があったが、具体的に会社を立ち上げた資金は、銀行・知人からの借り入れなど、どのような形で調達したのか。

回答) 会社の資本金500万円は家族や自身の貯金。運転資金は150万円残っているが、非常に少ない。固定費が5、60万円かかるので3か月分ではないのもっと必要だ。大学の先生や先輩方から、クラウドファンディングというものがあると教えていただいた。

③ 事業創造大学院大学 M2-2 ファム・フォン・リン様

「ベトナム人労働者にオンライン日本語コースの起業」

質問) 分析の中で「日本人のパートナーが足りない」との弱みがあったが、どのようなパートナーを求めているのか。

回答) 連携したいパートナーは、登録支援機関と受け入れ企業、日本語教育機関。

質問) 日本で働いているベトナムの方が、このカリキュラムで学んで日本語が上手になった時に、その方の「給料を上げる」要素は今の制度はあるか。

回答) 会社によってはある。技能実習生が特定技能生になるための日本語試験があるので、このリモート教育は必要だ。

質問) 「新潟におけるベトナム人協会」の会員と、新潟県在住のベトナム人の方は何名位か。また、他県のベトナム人を受け入れる予定はあるか。

回答) 会員は30名ほど。県内在住は2018年のデータでは2,100人位。ベトナム人にとってはコミュニティが大切だと思う。全国都道府県においても半数位はベトナム人協会がある。

4. 講評：新潟ニュービジネス協議会会長 宇尾野隆 氏

大変素晴らしいプレゼンテーションをありがとうございました。日頃、事業創造大学院大学の皆さんは自分が何をしたいのかの目的意識があり、起業家意識が高いと感じています。今日もプレゼンテーションを聞いて、そのように感じました。

No.1のリ・キョウコンさん、No.3のファム・フォン・リンさんのビジネスは、外国人実習生の受け入れということで、日本も人手不足という中で外国人受け入れの制度ができたので、十分ビジネスになる市場だと感じています。ただ、受け入れの制度がしっかりしていないとトラブルも起き、市場も安定しないので、お二人のプランはとても重要な仕事になると思います。自国のためはもちろんのこと、日本にも貢献する事業を行っていただきたいと期待しています。

No.2のレ・ホン・フーさんの事業について、私も去年はベトナムへビジネスで行く機会が何度かありました。ベトナムコーヒーは甘さも調節でき非常に美味しく、日本にあつたらいいな、と思っていたので、非常にうれしく思います。ホーチミンやダナンの街中には一軒おきにカフェがあるような感じで、ビジネスの打ち合わせもカフェで行うなど、ビジネスの場として利用していると聞きました。今後どのようにマーケティングをしていくのか、大変なこともあると思いますがぜひ「新潟発」で成功していただきたい事業です。シンガポールコーヒーはチェーン店で展開しているところを見かけます。インドネシア、台湾、香港など海外にも進出していると聞いていますので、この新しい味をぜひ新潟から日本へ広げていただきたいと考えています。皆さまのこれからのご健闘をご祈念申し上げます。

以上